

座談会 天皇とわれわれのあいだ

※※※※※※※※※※※※※※※※

はじめに

ここに収録する座談会は、本誌で天皇制特集を組むに当り、私たち及び私たちの運動にとって天皇制とは何であり、どのような位置を占めているのかについて、編集委員会及び編集に協力しているメンバーを加え、計四名の人間で行った討論を整理したもので、現在までの私たちの天皇制への取り組み方の不十分さを反映した、いわばシロウト談話に終始しているものである。あえてこれを収録するのは、これが私たちの現在の力量と現状認識を如実に示している、私たちはこれから出発するしかないのだというこのためではなく、シロウトにできない運動は運動ではないという認識を前提に、シロウトとして天皇制にどう関わり、どのように運動を形成すべきなのかということについて、この座談の記録がいくらかでも私たちの運動形成と充実・深化に役立つ

討論 構成Ⅱ 編集部

てばよいと思つたからである。

問題提起にかえて

今までアナキズム系といわれている運動（自称、他称を問わず）のなかで、戦後の象徴天皇制について、それが私たちの運動の明確な敵対物であるという把え方を示したものは、大島英三郎氏の皇居発煙筒行動や大沢正道氏の『われらの内なる天皇制』が見られるぐらいであり、天皇が絶対権力者であった戦前においてすらも、金子ふみ、朴烈、難波大助以後はほとんど見る事ができず、自連や無政府共産党といった組織すらも天皇を主要敵とみなすことは回避している傾向が見られる。それどころか、むしろ『天皇制アナキズム』ということが一部で首唱されたりしたという事実がある。なぜ、今日までの私たちの運動が総体と

して天皇又は天皇制の問題に正面から取り組みえず、主要敵という認識を放置してきたのか、あるいは天皇は私たちににとって主要敵ではないのか、このことを解明することとは、象徴天皇制の持つ強大な政治性が露呈しつつある現在、私たちにとっての急務であると思われる。

天皇制の現在の位相

天皇訪欧、皇太子の沖繩派遣に引き続いて天皇訪米が今秋行われようとしている。これが単に儀礼的なものではなく、日本資本主義と政府当局の政治的な意図の下に企画されていることは、現在ブームと呼べるほど多く出版されている天皇制についての単行本・雑誌類を参照すれば明らかである。問題は、それが全く政治性を隠蔽した形で行われ得るという、現在の象徴天皇制の政府支配権力による利用の仕方と、それを当然のことだと思ひ込ませられている私たちの内の天皇制に呼応する心性にあるといえる。

近世以来天皇親政が実現したことは（現在の天皇はそれに近いということがD・バーガミニや井上清によつて論証されてはい

るが)ほとんどない状態で、天皇の行動は直接政治性を有するものではなく、国家的儀礼の司祭としてその行動を国民に示してきたということが、私たちの先入観としてあるからなのだろうが、国家的儀礼そのものが政治的目的のために企画されているのだということを見落しているために、天皇の行動は政治上の過誤から免罪されているのだ。象徴天皇制は、そうした意味で貴族ないし武家が政治権力を握っていた時代の宗教総括者の天皇制よりも高度にたくらまれた支配の機構となっている。宗教統括者は、政治権力の政治的要請を直接に反映してみせる必要はないが、現在の天皇は政府権力の要請どおりに行動し、しかもその責めを天皇自身が負うことのない政治権力にとつての安全装置であり、隠れミノとなつてゐるのだ。すべての議会主義政党が天皇を主要敵とは見なさないことが確認されて以来、とりわけ沖繩返還で日本の一として一体化が政治的に必要になつて以来、天皇は支配権力の意図を国民にソフトな形で伝えるすぐれた機構としての姿を露骨に示しつつある。しかも、それは天皇にまつわる警備の属化と情報管理の高度化・柔構造化

という形で拡充・強化され、支配権力と人民との間のクッションとして、私たちすべての上におおいかぶさつてきているのである。

ここで、天皇は明らかに支配の最高装置として、私たちの自由と解放への希求を制限し、阻害するものとして立ちあらわれることになる。「天皇があるから差別がある」という言葉は実のところ日本人の天皇を免罪してしまう心性が存在する限り「天皇があるから支配がある」と読みかえられるべきではないだろうか。

座 談 会

△天皇制の政治的位置▽

A 天皇制をめぐる議論がここ二、三年非常にさかんになつてきているんだけれども、それがなんと言つたらいいのか、ほとんど言いたい放題好き勝手になされていていわば無政府状態の観がありますよね。しかし、それにもかかわらず議論が煮つまつて運動構築へと向ううねりがな

B そう。そして天皇制をめぐる論旨は天皇の戦争責任を追及するものが上代史といつか天皇の出自をうんぬんするといった天皇制の歴史的根拠をいじくりまわす議論とに集約されている。

C もちろん、菅孝行や大沢正道などが天皇制の構造を分析してやや目新しい問題を提起しているけどね。

A でもまあ、いささか乱暴な言い方かもしれないけど、天皇制について考えるということはとりもなおさずわれわれのよる戦後生れの若い世代がこれをどんな視座からとらえることができるのかというところ、そしてついには天皇制打倒のプログラムを運動の中に組み込むという意識のもとに展開していく方向性を示しえなければうそですよね。

C 若い人の多くはオレには関係ないや、いてもいなくても同じじゃないの、というふうなこの問題を通してきているからね。

A ところが実際は天皇制はかならず国家の、日本国家の中核にあつて、しかもある主要な、根源的な役割を具体的に果たしているわけだ。

△ 天皇制の政治的位置▽

A それは戦前、戦後のきれめなくそういえるはずなんだけど、いったい反国家主義者たるべきアナキストは天皇制に対してどんな対応をしていたのですね。

D 日本のアナキズム運動では明治、大正、昭和とおして天皇はタブーだったんだね。運動というのがある程度まで合法的に積み重ねられなければならないだろう。じゃなかったらテロリズム以外になくなってすぐにべしゃんこにされちゃう。ところが戦前は天皇のことを言う上不敬罪があったからな、運動として触れるわけにいかないのだからタブーだったんだよ。もちろん大杉だつて誰だつて天皇制には反対だったけれど、直接天皇制打倒というのではなくて、誰かが先験的に人民の上に君臨するような、そういう体制はそもそもでたらめなもので許すわけにはいかないんだ、というふうに抽象的にしか言えなかったわけだよ。

だけど戦争に負けて天皇制批判は自由になったはずなんだけど、今度は連合軍が日本人をまとめるのに天皇制はあった

方が都合がいいという方針をとつたんで天皇制はタブーではないにしろその批判自体が社会的、政治的にオミットされちゃった。だから今の若いモンが天皇制についてどんな知識も観念も持たないという奇妙な状態ができあがつちまつたんだな。

C 社会党も共産党も天皇制廃止の運動はやらなかったからね、全然。

D それで、運動体の中にいる人なら、天皇制のことは、そいつは言わなくてもいいんだつて、常識だったのに、奥崎さんとか、皇太子の結婚のとき石投げついたら青年だとかが突然、ポツと出てくる。つまり、運動体の外側にいた人の方がはつきりこんな天皇なんて腹立つものは許せんというふうにして行動にうつすことができることになる。

そうしてはじめて、昔だったら即日死刑になるようなことも今ではせいぜい二、三年刑務所にいくくらいのもんだということが明らかにするという調子で……。

A つまり、運動をやり続けてきた当の連中こそが天皇制に呪縛されているんですね。

D 近藤憲二さんだつて岩佐作太郎さんだつて真正面から天皇制については何も言

わなかった。近藤さんなんてあれだけ精力的に闘つた人なんだけど、戦後になつても「わたしや明治の人間なんだねえ、今の若い人があんな特権階級はとつぱらわないとだめだ、なんていうはなしを聞くとしてつもないことをいうなあと思うんですよ」つてな話をしていたことがあるんだね。ただ大杉だけが、現人神だなんて、そんなべらぼうなものもあるもんかって言つてたけども。

まあ、いろんな方法があると思うけどアナキズムにとつて天皇制打倒はこれから構築していかなくちゃならない問題なんだとぼくは思うんですよ。

A 今のいわゆる天皇制ブームはその運動構築の胎動のようなものかもしれませんがね、左翼総体としての。

△ 天皇制の本質▽

A ま、そうだとするとここらあたりで、じゃあ天皇制の本質というか、中核をなしているものは何なのかということをおさえておきたいですね、この特殊日本の

な権力構造を。

B 日本人の天皇の受けとめ方について大沢（正道）さんは「われわれ内なる天皇制（正道）さんでこう書いてるんです。天皇制とはひとつには政治権力としての天皇制であり、他方では心的構造として日本人ひとりひとりが持っている天皇制である、と。この大沢さんの見解はいろんな天皇制論の中では非常にユニークな立場にあります。他の、たとえばマルクス主義者なんかは天皇制を文化的な範疇でとらえては右翼的な川端とか三島を批判するにとどまってしまうのであり、限界がある、と。だから天皇制はイデオロギーとしてはつきりとえなければならぬのだ、というわけだ。ま、大沢さんは全体革命の一環としてこの、内なる天皇制という考え方をうち出しているわけ。

C それは何も天皇制でなくてもいいんじゃないの。権力とか、自分の心の中にある権力へのあこがれとかさ。

B それはそうんだけど、ヨーロッパ社会ではその思いを法律に結晶させるわけだけれども日本では実在する人間に託す

るわけなんだ、天皇にね。

A 北沢史朗っていう人がね、『終末から』の去年の八月号の中でこう言ってますよ、「天皇制を考えると日本の国家権力構造を考えることである」これは正しいね、で、続いてこう言うんだな、「もし本気で天皇（制）を叩き、現体制権力を撃つつもりなら手は三つしかない。第一は『ヤマザキ天皇を撃て！』を書いた奥崎謙三のように冥府から立ちかえり、裏切った国家に対して、大東亜戦争を貫徹しぬく方法、第二は日本の中の第三世界の住民アイヌ、琉球人、強制連行されてきた在日朝鮮人の視角から日本国家を下から突き破る方法、第三はかつて大東亜共栄圏であったアジア第三世界に日帝を再び引きずり出して叩く方法である」ところいうんだけどね（笑い）。

B それと全く逆のことを丸山照夫さんが言ってますね。要するに日本人以外のアイヌ、在日朝鮮人、沖縄人なんかに天皇制を倒してもらおうという考えではだめだ、と。なぜなら日本人ひとりひとりの中に天皇制を支え、つくり育てていく

ような心があるからだ、というわけですよ。だから仮に宮下太吉が天皇を殺してしまつたとしても天皇制はなくなるどころかその反動でいよいよ強まつたにちがいないと大沢さんは主張するわけですね。

A そのとおりだね。そもそもわれわれは戦後世代の人間だから第一の方法はとりえないし、第二の方法からははじき出されてる。残るのは第三の方法だけど、これもないよな（笑）。引きずり出すっていうからには国外に出なくちゃならないわけだろ、マンガの読みすぎだよ、こりゃ。

そうなると当然、この内なる天皇制を撃つとはどういうことなのかというはなしになるわな。で、どうなの、大沢さんはそのことは言及してないんだろ。

B もちろん言っていないけど、日本に内なる天皇制として根づいてしまつた根拠についてはこういつてる。つまりヨーロッパ社会は心的構造の総和を神、精神、法という抽象化された表象としてリアルイズしたのに対して精神を精神として自立させることのできなかつた日本人は高度

な文明社会を保持、強化するために実存する何かにそれを仮託することで心的構造をもちこたえたんだ、というわけです。

A そうすると日本人はなぜ精神を精神として自立させえなかったのか、という問題は残るけど、今からでも、仮に精神を精神として自立させれば天皇制は霧散してしまいかね。

B ところが支配者としてはこういう心的構造を十二分に利用しようとするからそういう下からの精神運動は順調に育たないですよ、当然。

△天皇制の存在様式▽

D 何代続いてきたといっても天皇家には俊才もいればボンクラもいて、大正天皇が梅毒でバーだったってことは誰でも知ってることだし、孝明天皇ってやつは酒が好きでね、毎日めざしを肴にどぶろくかつくらってたんだね。きたないかっとうでさ。

ところが明治維新だろ、中心になつてやった連中なんて下級武士なんだよ。徳川を倒すのはいいいとしても何かをかつぎ

出さないことには新政府の威信もなにもあったもんじゃないんだ。庶民は天皇はどんなものか知らなかったかもしれないけど生活と不十分なかたちで天皇と密着していたんだから、これは利用しない手はないよな。内裏びな、あれは天皇と皇后だからね、町民はみんな知ってたんだ。だからいきなりこれから江戸に天皇が来るといふときも徳川に代って天皇の政治になるってこともすんなりいったんだね。

C だから東京なんだね、京都の天子さまが東に移ってそこを都にしたと……。しかし、今度は政治的実権をもった王として君臨した。

A その天皇制の存在様式ですがね、これは歴史的にいって、おもてだった支配者として政治的に君臨したことはなくて、大かたはいわば形式的な首長というかたちで世襲されてきましたよね。そしてそういう天皇は望んでか望まれてか、ま、おれはね、形式的な受動性に徹することによってかえって強靱な主体性をたたえていると思わざるをえないんだけど、おもてだつて主体的な行動も発言もしない

わけよ。それは明治、大正、そして戦争期も一貫している。

その象徴的な事件が敗戦時のヒロヒトですよ。ヒロヒトが戦争をやっちゃったのは自分ひとりが悪かったからオレひとりを死刑にしてくれ、他の連中は許してやつてくれ、とマッカーサーのところにトコトコでかけていって言ったわけだ。一見それは天皇の主体的な意志の発現にみえるけど実はマッカーサーにまああといわれてあつそうとか言つてあつさりひき下つちゃうわけなんだ。いや、オレ絶対まちがつてたから腹切るつていうような意志ははじめつから持つてないんだな。

天皇家は分をわきまえてるよ。チビ天がね、天皇がわたくしにこう言いました、天皇家は続くことに意味があるのだと、どっかに書いてあったよ。舌まくね。集積された家の歴史だけで十分なんだ、こいつは積み重ねれば積み重ねるほど重みも深みも増すんだと言っているわけだね。

B 天皇個人はどんな征服欲も政治的イデオロギーも持つていなかったから戦後、

政治権力を剝奪されてもいっこうにたえないまま戦後社会に君臨できたというわけですね。

△天皇の戦争責任▽

B その一方ではしかし戦争をはじめるといふ最終決定を下したのも、終らせるといふ最終決定を下したのも当の天皇だつたわけだから戦争責任はまぬがれないはずなんだけど、何ゆえこれまで問われずに至っているんでしょうね。

C このあいだの報道ではドイツのナチ戦犯が日本に潜入するかもしれないのでもしひつかかったら逮捕してくれ、と西ドイツ政府から警視庁に要請があったというんだけど警視庁ではかなり当惑したらしいんだね。同じ敗戦国なのに戦争に対する態度のちがいは全く対象的ですよな。

D そういうふうに戦争責任があいまいにされた原因はやはりGHQの方針に負うところが大きいね。天皇は日本をまとめおくためには手をつけないでよく、しかし誰かを断罪しないことには戦勝国としての立場がないからある程度はやる。

結局責任をとるべき張本人を生かせておくわけだから責任をとらせる側もあいまいだったんだね。

C だからといって天皇の戦争責任をことさら追及してたとえはヒロヒトの退位というようなかたちで済ませてしまおうとすればこれまた問題のすりかえですよな。天皇の責任問題は常にそういう危険な可能性をもっているんだな。

D もし退位ということになっても、次の天皇を準禁治産者扱いにでもするとでもいうようなことが同時に決められなければウソだよな(笑い)。

B やはり問題は天皇制そのものに帰着しますね。

C そう、放つとけば死んでも殺されても次から次へ皇位継承権は譲られていくわけだからね。

A 天皇制はそつとしておいてヒロヒトにだけは戦争のケツふいてもらおうじゃないかという考えは右翼だつて持つてますよ。またさつき(北沢史朗)の引用なんだけど児玉誉士夫が「天皇はやはり戦争の責任を明らかにすべきである」と。退任をお願いしたいと。ご退位といつても

天皇はなくなることじゃない。やがて皇太子が大きくなられたときに自分の父―天皇は戦争の責任を立派にとつたという誇りがなくなる。人間としての誇りを持つ意味においても陛下は戦争の責任を明らかにしてご退位されるのが至当ではないか」とまあ、こういうわけですよ。またいまのところ天皇制は国民の精神のシンボルとして壊してはならぬと思う、と言いつつ「だがもしナショナルコンセンサスが天皇制以外にほかから得られるなら天皇制でなくともいいのです」とも言ってるんですね。共産党なんかよりよっぽど筋通つててましじゃないかね(笑い)。

△日本の左翼と天皇制▽

D 日共みたいに権力そのものだとな皇制批判は党の発展のためにまずいからよしところとなるわな(笑い)

B 戦前は天皇制打倒を掲げた唯一の党派だったんだけどね、今じゃ天皇制下の民主連合政府を目論んでいるわけですからね。ジャーナリズムがその辺をつくつと、憲法一条がどうの、国民の意志がどうの

といつてすっかり党としての主体性を放棄してしまっているんだから。

A 日共にかぎらず現代の共産主義はそれ自体としてあげつなくなっているんじゃないの。ラオスでもカンボジアでも君主制共産主義だなんていわれているんだからね。君主制と共産主義が両立するってんだから狂つてるよ。

B 民族主義を軸にした革命はこういう矛盾からまぬかれないのじゃないですか。

A 日本はどうなるのかね、まさか民族民主革命じゃないだろ(笑い)。

B 連合軍が天皇制を利用したのと同じように日共も利用するだろうさ。

C 民主連合政府ができたって天皇制にはいつさい手をつけられないよね。本質的に大衆追従なんだから票の犠牲をおしてまで天皇制廃止をいうわけがないよ。

B 宮本が天皇にひざまずけばこれはもう天皇制共産主義の完結ですよ。

A 逆だともっとおもしろいよ、天皇が何かまちがって反資本主義的な行動のリーダーシップをとったりしたら日本人民はなだれうって戦列を組みますよ、たいこもちは日共だね。

C それは何も日共に限らないと思いますよ、天皇制アナキズムっていうものもあるんでしょ、驚いたことに。見たことあるよ、どつかで。

B アナキストの側から言うとな皇制を特別もちあげなければならぬ内的根拠なんてどこにもないでしょう。

C それは本来のアナキズムからいえばもちろんそうだけど意図的に今の日本の社会の中で考えるところの天皇制を利用した方がうまくいくとか秩序を乱さないためには有効だとかいうふうに考えるアナキストがでてきても不思議ではないね。

A 政治局面ではね、ありうるわね。

B しかしアナキズム陣営の中にそういう傾向があらわれてくるとしたらそれは墮落ですね。

一同 そうですね(異口同音)。

A ところがわが新旧新左翼の方はどうですか。

C 党派で鮮烈に天皇制打倒をうちだしているところはないみたいね。もちろん沖縄海洋博粉砕のスケールの中で皇太子の訪沖実力阻止は叫ばれているし、その関連で天皇制の中核に迫ろうという勢いは

あるけどね。それからこの秋の天皇訪米を阻止するというのもある。

B 運動としてやるには力不足なんですよね、まだ。主眼はあくまでも日米帝国主義間の矛盾の調整に一役かつて天皇訪米を阻止する、という意味あいなんだから。

△天皇制批判勢力の実力▽

A やはり天尿組どまりですかね。いつてみりゃ天尿組だつてその内実は大逆事件どまりですから七十年以上たつて全然進歩してないんですよ。とても大衆運動レベルで天皇制打倒を組織できないという現状でしょう。

D それに一方では根強く天皇がいて当然で尊いもんなんだという感覚が日本民族の中にはあるんだよね。

C それは戦前派、戦中派はそうかもしれないね。

A いやそうじゃないよ。外国で暮している大使館員だとか商社マンなんか天皇の写真かざってみたり、酒飲めば天皇陛下下才だなんて音頭とってみたり、これが

さ、クソジジイならまだわかるよ、ちがうんだ、三十そこそこのクソガキがこうなんだからね。そいつら日本に帰ってきて天皇陛下は日本人としての心の支えだったなんてひどいこと言ったりするんだからね。いわばエリート連中だけど、殆んどこの手合だからね。

D 権力者に限らず、権力的思考をする人は口でどんなに進歩的なことをいっても天皇制をこえていないのは事実だね。

C 権力の方は莫大な金を使って天皇制を海外向けに宣伝しているでしょ、特に東南アジア諸国の新聞なんかに一ページ、二ページと買い切つて。そういう動きに対応できないばかりか、知ることだつておぼつかない、これが実力なんだね、われわれの側の。訪米を前にしてアメリカにもずいぶん宣伝してるんじゃないのかね。

△天皇制への照射▽

A しかしなんです、天皇制はわれわれに関心が薄いということは現代社会にひとくさり言うような若い人でもこと天皇

制については関係ないよとかあつてもなくともいいんじゃない、というような反応のうちによく表われていますがね、いったいどういうふうなこれに近づくことが可能でしょうかね。アナキストならこいつをネグッちゃはなしにならないから、なんていうのは、実はこの号の特集を組むきっかけはなんとこんな調子だったんだけど、こりゃ本来からいうとただじゃない(笑い)。

D 天皇(制)に肉迫する道筋というのはまず第一に皇太子の結婚のとき石を投げつけた青年のように自分の出身階級からの怒りを持続させるということだね。このあいだイギリスのエリザベス女王が来たとき宮中晩餐会をテレビで見てたけどすごいんだよね、豪華で。なるほど何千万もかけてこんなもの作りやがったのかつて……。それでこの宮殿ができたのが翌年の正月にバチンコの奥崎さんの事件と発煙筒の大島さんの事件がおこったんだよね。

C え、あれ、同じ日だったの。
D そうだよ、そうなんだなあ。君らのような人ですらこと天皇制については意外

に無頓着なんだな。

A うん。まとまった考えはまず、こういう機会でもなけりゃ作れない。朝鮮人や沖縄人のように肌で天皇制の抑圧を感じられないというのがいつわらざるところですね。

D 一般マスコミ、雑誌はどうあれわれれにとつて天皇制をめぐる問題をひとつひとつ解いていくことはこれからなんだということだろうね。個人的な怨念で天皇をひつぱりたいたり、つばひつかけたりするということは、そりゃそれだけするにも自分自身の中でも大変な緊張を必要とするけど、何だ、そりゃ気持は晴れるだろうけど人は納得しないもんな。

B やはり運動としてはせ昇る以外に道はないということですか。

D 日本の政治の土台を揺がすような地点からそれこそ大規模にやつていかなくちゃならないだろうね。それからこれは古くからのアナキストとしての自戒でもあるんだけど、
A それじゃ、まだ触れえなかつたこと、言い足りないことなどたくさんあります、特集の枕としてはこの程度で一応きりあげることしましょう。

△終▽